

【時間割コード】	※空欄
【科目名】	開発協力論特殊研究
【英文科目名】	Development Assistance and Government
【担当教員（代表者）名】	小林 誉明
【開講学期】	秋学期
【曜日・時限】	曜日・ 時限

【授業の目的（必須）】 授業で何を知らせてもらいたいのか。そのねらい、目的を示してください。

博士後期課程在学諸氏が取り組んでいる博士論文は、自らの発意に基づき自らが関心をもつ限定的なテーマを深掘りし、執筆を進めていくものである。しかし、一研究者がもつスキルやディシプリン、知見だけでは解き明かすことが困難な課題が現実世界には無数に横たわっており、国際開発協力はその最たる分野といえよう。個人研究の限界を乗り越えるためにしばしば行われるのが「共同研究」であり、ある一つの研究テーマに対して専門が異なる複数の研究者が協力して取り組むことによって多角的・複眼的な見方を得ることが可能となる。国際開発協力の領域でしばしば引用される知見も、国際共同研究プロジェクトの成果であることが多い。

本授業は、教員および受講生をメンバーとする短期の「共同研究プロジェクト」を実体験する機会を提供するものである。研究成果を創出するまでのプロセスを1クール経験することによって、国際開発協力の分野において職業研究者として独り立ちするために必須となるコア・スキルを体得することが狙いである。

【授業概要（必須）】 授業計画を第1回～第15回（4単位科目は第30回）まで、1回ごとに具体的に記述してください。

なお、定期試験を実施する場合には第16回目もしくは、第31回目に「定期試験」と記載してください。

1. オリエンテーション：企画案（共通テーマ、研究プロセス、最終成果物のイメージ等）の説明
2. 当該分野の最高到達点の確認（主要先行研究の講読）
3. ブレインストーミング1：何を明らかにしたいかリサーチ・クエスチョンの検討
4. 乗り越えるべき先行研究（最も類似する研究および最も対極にある研究）の選択と内容紹介
5. ブレインストーミング2：何をどのように書くか、ディシプリンや方法論の検討
6. 各担当のプロポーザル（タイトル、章立て、文献リストを含む）提出および報告
7. プロポーザル最終案の確定
8. 共通テーマに関する理解を深めるための専門家招致
9. 中間報告会：ピア・レビュー
10. 共通テーマに関する理解を深めるための文献解読会
11. 序論の提示とコメント徴集
12. 各章ドラフトに対する編者からのコメント
13. 各章ドラフトへのコメントに対する各執筆者からの対応案説明
14. 成果のメンバー内報告会
15. 外部公開セミナー開催

講義終了後数ヶ月かけて、紀要その他媒体への投稿や刊行準備、学会発表、実務へのフィードバック等を行う。

【履修目標・到達目標（必須）】 授業を通じて学生に何を習得させるか、期待される学習の成果等について、必ず記述してください。
履修により得られるキースキルについても、できるだけ記載してください。※学生を主語として記述してください。（例：「～ができる。」、「～ができるようになる。」）

本講義を通じて以下の成果を獲得されることが期待される。

- ① 直接的なアウトプットとしては教員編著における単独章もしくは教員との共著論文が発刊される。
- ② 作成された成果物は、博論の一章に入れることもできる。
- ③ 新たなナレッジが生み出されるとはどういうことなのかを体感することができる。
- ④ 共同研究プロジェクトをまわすことの実際の難しさを実感できる。
- ⑤ 文献の読み方が、ただ漫然と「読むために読む」というものから、「書くために読む」というアウトプット・オリエンティドなものに変わる。
- ⑥ 企画案全体のなかの一部分に自らの研究を組み込んでいく作業を経験することによって、共同研究において不可欠とされる柔軟な調整能力が身につく。
- ⑦ 学会（ジャーナルに体现される）の傾向や読者（出版社の編集者に体现される）の関心を見据えてテーマ設定を行う「マーケティング能力」が向上する。
- ⑧ 自分の関心と完全に一致するテーマではない場合であっても、与えられた「お題」に取り組む努力をすることで、自分の関心に引きつけ、自らの専門性を広げていくことができるようになる。
- ⑨ 自分には欠けているスキルを他者から借りて研究を完成させる能力を身につけることができる。
- ⑩ 教員を含めた他の研究者の研究スタイル等を知ることができる。

【授業方法】 資料の配布や音声もしくは画像教材の活用など、授業の進め方について説明してください。
また、授業中の質疑・討論や小テスト、課題提出、レポート作成その他、授業方法に関する情報を記述してください。

本授業は、国際開発協力における現時点で最もホットな 이슈を共通テーマとした共同研究プロジェクトの形態をとる。テーマについては参加者と要相談とする。

各回の授業は、研究会（ワークショップ）形式とし、独立した研究者どうしが切磋琢磨しあう場となる。各担当は、割り振られた執筆テーマに基づいて自ら研究を進め、研究会の場においてプロジェクト・リーダーからコメントをもらい、また共同研究者からのピア・レビューを受ける。

【成績評価の基準（必須）】 「成績評価基準の標準化」との関係で、評価法とその配分を明記し、

評価の観点を記述してください。

提出された最終成果物のクオリティ（70%）、その創作プロセスにおける姿勢とつぎ込んだエフォート（30%）により評価する。

【教科書】 授業や授業時間外学習で使用する図書情報(購入を必須とするもの)を全項目入力してください。

ISBN は半角ハイフンなしで入力してください。

教科書を指定しない場合には、教科書1の書名欄に「-」と入力してください。

教科書 1	ISBN		書 名			
	著者名		出版社		出版年	
教科書 2	ISBN		書 名			
	著者名		出版社		出版年	
教科書 3	ISBN		書 名			
	著者名		出版社		出版年	
教科書 4	ISBN		書 名			
	著者名		出版社		出版年	
教科書 5	ISBN		書 名			
	著者名		出版社		出版年	

<教科書補足> 教科書の使用方法、教科書を使わない場合の教材情報、その他学習に役立つ資料の情報などを記述してください。

特にない場合には「-」と入力してください。

-

【参考書】 授業や授業時間外学習の参考になる図書情報(購入が必須ではないもの)を全項目入力してください。

ISBN は半角ハイフンなしで入力してください。

参考書を指定しない場合には、参考書1の書名欄に「-」と入力してください。

参考書 1	ISBN		書 名	-		
	著者名		出版社		出版年	
参考書 2	ISBN		書 名			
	著者名		出版社		出版年	
参考書 3	ISBN		書 名			
	著者名		出版社		出版年	
参考書 4	ISBN		書 名			
	著者名		出版社		出版年	
参考書 5	ISBN		書 名			
	著者名		出版社		出版年	
参考書 6	ISBN		書 名			
	著者名		出版社		出版年	
参考書 7	ISBN		書 名			

	著者名		出版社		出版年	
参考書 8	ISBN		書名			
	著者名		出版社		出版年	
参考書 9	ISBN		書名			
	著者名		出版社		出版年	
参考書 10	ISBN		書名			
	著者名		出版社		出版年	

<参考書補足> 参考書の使用法、参考書を使わない場合の教材情報、その他学習に役立つ資料の情報などを記述してください。
特になければ「-」と入力してください。

講読する文献については必要に応じて随時提示する。

【履修条件および関連科目】 当該授業を履修するにあたって、あらかじめ履修すべき授業科目などの条件がある場合に明記してください。
また、並行して履修することによって教育効果を高める授業科目などの情報がありましたら記載してください。

すでに独自の博士論文の執筆計画を開始していること。

【キーワード】 5語以内で重要語句(かっこ書きで英語併記)を入力してください。語句は半角カンマ「,」(全角は不可)で区切ってください。
語句抽出が困難な科目は「-」を入力してください。
キーワードは「シラバス検索」で利用されます。

共同研究、研究プロジェクト、アウトプット、国際開発協力、

【備考 1】 学習動機を高める学生へのメッセージやその他の注意事項等を入力してください。

【メッセージ】

研究者は、スモールビジネスにおける“一人社長”に形容されることがあるが、研究とは“自由”の反面“孤独”なものでもあることは博士論文執筆中の諸氏が実感するところであろう。しかし、課程修了後に待ち受けているのは、自分の好きなことだけを一人で引きこもって研究するという牧歌的な状況とはかけ離れた現実であろう。社会科学、特に国際開発協力分野においては、常に最新のトレンドをキャッチし、現場のニーズを満たすような研究計画を立案し、インプリケーションを導くといった政策志向の研究成果を一定程度出していかなければ、生き残ることは難しい。研究助成元や読者の関心といった“市場”の動向も考慮に入れる必要がある。本授業は、異なる専門領域の研究者と共同して、社会が必要としている旬の特定テーマに自らをアジャストし、またテーマのほうを自らの関心に引きつけて解釈し直していくという訓練を積むことによって、国際開発協力の分野における研究者として巣立っていくための素養を身につける場を提供するものである。

【留意点】

・毎週の授業の進捗に間に合わせるためには、受講生各自が独自に相当な研究時間を確保することが

求められる。

- ・共同研究の成果発刊のためには半期の授業期間のみでは足りないため、授業期間が終わっても本プロジェクトへの継続的なコミットが求められる。

【備考2 [学外非公開]】 当該科目の説明のうちで、学外へ非公開とすることが望ましい事項についてはこの欄をご活用ください。

【参照ホームページ】 学生の学習に効果的な情報が掲載されているホームページがあれば入力してください。

アドレスを入力すると、公開画面に、自動的にリンクが張られます。

複数のアドレスを入力する場合は、スペース（空白）をあけて入力してください。